

特集記事③

第 50 回消防救助技術近畿地区指導会



警防課

7月23日(土)、兵庫県広域防災センターで開催される第50回消防救助技術近畿地区指導会への出場隊員が決定しました。

1 陸上の部

(1) ロープブリッジ救出 2チーム

4人1組(要救助者を含む)で、2人が水平に展張された渡過ロープ(20メートル)により対面する塔上へ進入し、要救助者を救出ロープに吊り下げてけん引して救出した後、脱出する。要救助者を隣の建物等から進入し、救出することを想定した訓練です。

(2) 障害突破 2チーム

5人1組(補助者を含む)で4人が緊密な連携の下、一致協力して「乗り越える」「登る」「渡る」「降りる」「濃煙を通過する」の基本動作により5つの障害を突破する。災害現場の様々な障害を想定した訓練です。

(3) 引揚救助 2チーム

5人1組(要救助者を含む)で2人が空気呼吸器を着装して塔上から塔下へ降下し、検索後、要救助者を塔下へ搬送し、4人で協力

して塔上へ救出した後、ロープ登はんにより脱出する。地下やマンホール等での災害を想定した訓練です。

2 水上の部

(1) 基本泳法 4チーム

「じゅんか飛び込み」で入水した後、常に顔が水面に出た状態で、基本的な泳法である「ぬき手」と「平泳ぎ」でそれぞれ25メートルずつ泳ぐ。水難救助の基本的な泳法を習得するための訓練です。

(2) 溺者搬送 1チーム

2人1組(要救助者を含む)で、救助者が「じゅんか飛び込み」で入水後、要救助者(溺者)を注視しながら近づき、チンプールで確保した後、ヘアーキャリーにより救助する訓練です。

(3) 人命救助 1チーム

3人1組(要救助者を含む)で救助者が「二重もやい結び」のロープをたすき掛けにして要救助者の位置まで泳ぎ、要救助者をクロスチェストキャリーで確保し、補助者が救助口

ープをたぐり寄せて救助した後、再び水没しつつある要救助者（訓練人形）を水面に引き揚げ、救助する訓練です。

(4) 溺者救助 1チーム

3人1組（要救助者を含む）で救助者と補助者の2人が協力して浮環にロープを結着後、補助者が浮環をプール内へ投下して、救助者が20メートル先の要救助者の位置まで浮環を搬送し、これに要救助者をつかまらせ、補助者がロープをたぐり寄せて救助する訓練です。



(5) 複合検索 1チーム

マスク、スノーケル、フィンを着装し、スノーケリングで障害物（救命浮環）を突破しながら水中に沈められたリングを検索して、引き上げる。水中の行方不明者の捜索を想定した訓練です。



3 披露会

7月11日（月）に水上の部、7月15日（金）に陸上の部の披露会を実施しました。

コロナ禍で様々なイベントが中止され、救助披露会についても3年ぶりの開催となりました。隊員の皆さんは、多くの来賓が来られる中、全力で訓練の成果を披露しました。

第50回消防救助技術近畿地区指導会は、来る7月23日（土）に兵庫県広域防災センターにおいて開催され、大阪府下、兵庫県下、合わせて約1,000名の精鋭が、技術を競い、白熱した訓練が展開されることをご期待ください。

なお、第50回消防救助技術大会は、8月26日（金）に東京都立川市で開催されます。

1チームでも多く出場できるように頑張りますので、ご声援よろしく申し上げます。

